

武田美穂展 絵本づくりはドキドキなのだ！

＜同時開催＞ちひろ 子どもは平和のシンボル

2026年7月25日(土)～10月25日(日)

ちひろ美術館・東京 展示室2・4

主催：ちひろ美術館

協力：ポプラ社、ほるぷ出版、理論社

後援：絵本学会、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、杉並区教育委員会、西東京市教育委員会、練馬区



1 武田美穂 『となりのせきのますだくん』(ポプラ社)より 1991年

絵本はエンターテイメント

“ますだくん”や“ざわざわ森のがんこちゃん”シリーズで知られる絵本画家・武田美穂。「エンターテイメントに徹して描いていきたい」と語る武田は、読者である子どもたちの関心を常に意識した絵本づくりを展開しています。映画の絵コンテをもとにしたコマ割りや、吹き出し、オノマトペなど、斬新でありながら親しみやすい手法を用いた表現が魅力です。

本展では、『となりのせきのますだくん』をはじめ、ラップ調のリズムによって調理する『オムライス・ハイ!』、戦争と平和をテーマにした『やくそく ぼくらはぜったい戦争しない』、最新作の『まるがかけたら』など、1991年以降の仕事のなかから代表的な絵本を紹介し、制作過程がわかる資料も展示し、子どもの心をとらえ続ける武田美穂の絵本づくりのひみつをさがります。



2 武田美穂 『となりのせきのますだくん』(ポプラ社)より 1991年

展覧会の見どころ

『となりのせきのますだくん』
刊行 35 周年！

1991 年に出版された『となりのせきのますだくん』は、2026 年に刊行 35 周年を迎えました。今も絶大な人気を誇る“ますだくん”シリーズから、『となりのせきのますだくん』『ますだくんのランドセル』『ますだくとまいごのみほちゃん』の 3 作品を展示します。



絵本『となりのせきのますだくん』
(ポプラ社/1991年)



絵本『ますだくんのランドセル』
(ポプラ社/1995年)



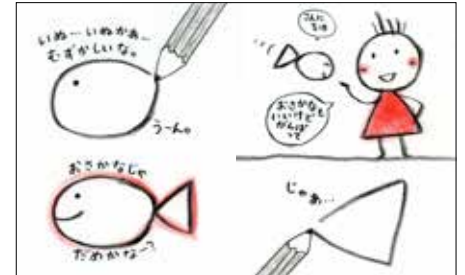
絵本『ますだくとまいごのみほちゃん』
(ポプラ社/1997年)

「子どもの心」をとらえる
絵本づくりの舞台裏

武田美穂は、1986 年に絵本画家としてデビューしてから、画材や手法、印刷技術などを駆使して、子どもの心の世界や、理屈抜きで楽しめる絵本を展開し続けています。制作過程が垣間見える原画や資料を展示し、絵本づくりの舞台裏を紹介します。



3 武田美穂 『おかあさん、げんきですか。』
(ポプラ社)より 2006年



4 武田美穂 『まるがかけたら』(理論社)より 2025年



5 武田美穂 『オムライス・ヘイ!』(ほるぷ出版)より
2012年



6 武田美穂 『やくそく ぼくらはぜったい戦争しない』
(ポプラ社)より 2025年

戦争と平和を考える

『ねんどの神さま』『やくそく ぼくらはぜったい戦争しない』は、作家・那須正幹の文や遺稿に、武田美穂が絵を描いた絵本です。3歳のときに広島で被爆した那須は、戦争の記憶が薄れつつある現代を危惧し、その思いを文章にしています。武田美穂が「戦争と平和」のテーマに向き合い描き出した絵本から、今改めて、平和を見つめ直します。



7 武田美穂 『ねんどの神さま』
(ポプラ社)より 1993年

武田美穂 Miho Takeda

1959年、東京に生まれる。1986年に『あしたえんそく』(偕成社)でデビュー。1992年に『となりのせきのますだくん』で絵本にっぽん賞、講談社出版文化賞・絵本賞、2001年に『すみっこのおぼけ』で日本絵本賞読者賞、2007年に『おかあさん、げんきですか。』で日本絵本賞大賞を受賞(いずれもポプラ社)。その他の絵本に『ますだくん』シリーズ、『ありんこぐんだん わははははははは』、『やくそく ぼくらはぜったい戦争しない』(ポプラ社)、『オムライス・ヘイ!』(ほるぷ出版)、『まるがかけたら』(理論社)などがある。絵本のほか、「ざわざわ森のがんこちゃん」(NHK Eテレ)のキャラクターデザインなどでも活躍。



撮影・星合隆廣

出展作品数 約 70 点

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「広報用作品画像データ貸出依頼書 兼 借用誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。

※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。※掲載紙/誌をご送付ください。

ちひろ 子どもは平和のシンボル

＜同時開催＞武田美穂展 絵本づくりはドキドキなのだ！

2026年7月25日(土)～10月25日(日)

ちひろ美術館・東京 展示室1・3

主催：ちひろ美術館
後援：日本子どもを守る会

子どもを描き続けた、その理由。
人々が愛し続ける作品、その心。



8 いわさきちひろ ひまわりとあかちゃん 1971年

「ちひろが子どもの姿を描き続けたのは、子どもが『平和』のシンボルに他ならないからだと私は思う。人々がちひろの作品を今日もなお愛さずにはおかぬのもまさにその心であろう。」と、ちひろ美術館の初代館長で劇作家の飯沢匡(1909～1994)は晩年に語りました。

本展では、ちひろが生涯描き続けたテーマである「子ども」に着目して、絵本や作品に込められた想いや背景を紹介します。ちひろの描いたさまざまな子どもの姿を通して、あらためて平和の意味について考える機会となれば幸いです。



9 いわさきちひろ 赤とんぼと小鳥と少女 1965年

展覧会の見どころ



初展示!

10 いわさきちひろ 大きな虹と子どもたちと働く人々 1960年代前半

子ども、花、鳩……平和の象徴

みなさんは、平和と聞いてどのような図を思い浮かべますか。ちひろの作品には子どもがたくさん登場し、ほかにも、花、鳩、虹など、平和の象徴ともいえる題材が描かれています。ことばではなく、絵によって、平和はどのようにあらわすことができるでしょうか。



11 いわさきちひろ 鳩と少女 1965年

国と、時代を越えて……ちひろの描いた子どもたち



12 いわさきちひろ 戦火のなかの少女
『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)より 1972年



13 いわさきちひろ チューリップとあかちゃん 1971年



14 いわさきちひろ キューウの主婦たち 1963年

戦場の子ども、遊んでいる子ども、キーウの子ども、近所の子ども、幼稚園の子ども、よちよちあるきのあかちゃん。ちひろは、さまざまな状況や場所、年齢の子どもたちを描いてきました。「子どもの心はどこ国でも同じ」と語ったちひろの子どもたちをご覧ください。

ともだちになること。
「平和」をあらためてかんがえる。

『となりにきたこ』(至光社)は、隣家に引っ越してきた男の子と、少しずつ友だちになっていく女の子を描いた、ちひろの絵本です。世界各地で戦争が絶えない今、大人たちは子どもたちから、なかよくなることについて学び、「平和」を考えることが求められているのではないのでしょうか。



15 いわさきちひろ 引越しのトラックを見つめる少女
『となりにきたこ』(至光社)より 1970年

出展作品数 約50点

図版について

本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。

ご希望の方は、別紙「広報用作品画像データ貸出依頼書 兼 借用誓約書」をご覧ください。

※必ず絵のそばに作家名・作品タイトル・制作年を明記してください。※トリミングや文字が絵にかかるようなレイアウトはご遠慮ください。

※データ等チェックのため、校正段階で原稿をお送りください。※掲載紙/誌をご送付ください。

展覧会関連イベント

松本猛ギャラリートーク ※2回とも同じ内容です

日時：8月2日(日) 14:00～15:00～
参加費：無料(入館料別) / 申し込み：自由参加

いわさきちひろのひとり息子・松本猛によるギャラリートーク。展示作品を見ながら、母・ちひろとの思い出や展示の見どころなどをお話します。

武田美穂ワークショップ「ひみつきち迷路をつくろう！」

日時：8月9日(日) 13:00～16:00

講師：武田美穂(絵本画家)

対象：小学生以上/定員：20名

申し込み：要事前予約

(7/9より公式サイト、TELにて)

ダンボールやいろいろな素材を使って、みんなでいっしょに迷路をつくります。詳細は公式サイトをご覧ください。



高橋真樹講演会 もしも君の町がガザだったら

日時：10月4日(日) 14:00～15:30

講師：高橋真樹(ノンフィクションライター)

会場：【ちひろ美術館・東京】

定員：40名/参加費：1000円(入館料別)

【オンライン】定員：100名/参加費：700円

申し込み：要事前予約(9/4より公式サイト、TELにて)

パレスチナで起きていることが、「遠くの世界の他人事」でなく、私たちにつながる問題であることを伝えます。



ギャラリートーク

日時：第1・3土曜日 14:00～14:30

参加費：無料(入館料別)

申し込み：不要

展覧会の見どころや展示作品について担当学芸員が解説します。

会期中のイベント

障がいのある方のための特別鑑賞日

日時：8月3日(月) 10:30～15:30

参加費：無料

(入館料別 ※18歳以下の方、障害者手帳をご提示の方とその介添えの方は無料)

対象：障がいのある方とその介助者、通常の来館に不安を感じている方

申し込み：要事前予約(7/3より公式サイト、TELにて)

障がいのある方や来館に不安のある方が安心して鑑賞できるように、休館日に開催する鑑賞日です。詳細は公式サイトをご覧ください。

ちひろ忌・アトリエトーク

日時：8月8日(土) 14:00～

参加費：無料(入館料別) / 申し込み：不要

ナイトミュージアム

日時：8月22日(土) 10:00～20:00

この日は、開館時間を延長して20時まで開館します。特別イベントとして、17時～「ちょっとこわい絵本のじかん」、18時～「すごくこわい絵本のじかん」などを開催予定です。(※こわさの感じ方には個人差があります) 夕暮れどきからはライトアップも。ドキドキする夏の思い出を夜の美術館でつくりませんか？

開館記念日・たてものツアー

日時：9月10日(木) 11:00～14:00～

参加費：無料(入館料別) / 申し込み：当日申し込み(10時より受付、先着順)

定員：各回15名

出張「子育てのひろば」

日時：9月16日(水) 10:00～15:00

参加費：無料(入館料別) 共催：NPO法人 手をつなご

子育てのひろばは、いつ来てもOK！ いつ帰ってもOK！ 屋根のある公園みたいなところですよ。経験豊富な保育の専門スタッフが常駐します。親子で楽しく遊んだり、子育てに関する相談をしたり、保護者同士が交流したり、自由にお楽しみください。

※託児はありませんので、お子さんといっしょにご参加ください。

敬老の日 9月21日(月・祝)

65歳以上の方は無料でご入館いただけます。(受付にてお申し出ください。)

わらべうたあそび

日時：10月3日(土) 11:00～11:40

講師：服部雅子(西東京市もぐらの会代表、はとさん文庫主宰)

参加費：500円(入館料別) 対象：0～2歳児と保護者

定員：10組20名

申し込み：要事前予約(9/3より公式サイト、TELにて)

リズムにあわせて体を動かしたり、声を出して歌ったり。物語への入り口となる「わらべうた」を親子で楽しみましょう。



絵本のじかん

日時：第2・4土曜日 11:00～11:30

参加費：無料(入館料別) / 申し込み：不要

協力：NCBN(ねりま子どもと本ネットワーク)

季節や展示にあわせ、毎回テーマにそった絵本の読み聞かせを行います。あかちゃんから大人まで、どなたでもご参加いただけます。

展覧会基本情報

展覧会名	武田美穂展 絵本づくりはドキドキなのだ！／ちひろ 子どもは平和のシンボル
会期	2026年7月25日(土)～10月25日(日) ※会期は予告なく変更になる場合があります。 ○開館時間＝10:00～17:00(入館は閉館の30分前まで) ○休館日＝月曜日(祝休日は開館、翌平日休館)、8/10、9/21の週は無休
入館料	大人1200円/高校生・18歳以下無料/団体(有料入館者10名以上)、65歳以上、学生の方は900円/障害者手帳ご提示の方とその介添えの方(1名)は無料/年間パスポート3000円
交通	○電車の場合＝西武新宿線上井草駅下車徒歩7分 ○バスの場合＝JR中央線荻窪駅より西武バス石神井公園駅行き(荻14) 上井草駅入口下車徒歩5分/西武池袋線石神井公園駅より西武バス荻窪駅行き(荻14) 上井草駅入口下車徒歩5分

次回展示予告

10月30日(金)～2027年1月31日(日)

没後70年

茂田井武とパリの画家たち
—Parisの破片(カケラ)—

ちひろ 旅のたのしみ

※開館情報、会期、展示名、イベント内容などは予告なく変更する可能性があります。